

災害対策用被服の変更について

中野区では、災害対応時には、中野区災害対策用被服及び物品取扱規程により災害対策用被服の貸与をおこなっている。また、災害対応中の中野区職員であることを確認できるよう区章を上着や帽子・ヘルメットに表示している。

現在の災害対策用被服は、導入後35年以上が経過し現在まで仕様の変更をしていない。そのため着用感が悪く特に通気性に難があると同時に、視認性の面でも区職員であることを示すものは小さな胸章があるのみであり区職員の識別が困難となっている。

着用する職員の安全性を確保しつつ、視認性を向上し、災害対応時に区民への安心感などの向上を図るため、災害対策用被服の変更を実施する。

1 災害対策用被服の変更について

(1) 新しい防災服に求めるポイント

- ・着用感…安全性を損なわない上で通気性や速乾性をはじめとする着用性の向上。
- ・視認性…中野区の職員であることがわかりやすいデザイン。
- ・男女共通仕様…男女間で差を設けないユニセックスの導入。

(2) 変更物品

現在貸与している、防災服（上下）、ベルト、帽子、ヘルメット、編みあげ靴、雨合羽の7点のうち、防災服（上下）および帽子を変更の対象とする。

(3) 導入計画

現在、各職員に配布している防災服と交換で導入していく。全職員を3段階に分け3か年計画で配布する。

年度	配布対象	人数目安
令和5年度	風水害一次(約600名に配布完了)+令和5年度新規採用	約700人
令和6年度	震災一次(約1500名に配布完了)+令和6年度新規採用	約900人
令和7年度	未配布の全職員(約2100名に配布完了)+令和7年度新規採用	約600人
令和8年度以降	各年度新規採用職員	

2 今後の予定

令和5年3月～4月	配布対象職員のサイズ調査
令和5年5月下旬	契約
令和5年9月	令和5年度の防災服配布

(参考) 現在の防災服と変更する防災服のデザイン (案) の比較

・現在の防災服 (男性用)



・現在の防災服 (女性用)



・変更の防災服デザイン (案)

